

地域高規格道路宮城県北高速幹線道路主要地方道築館登米線
IV期（築館工区）道路改良事業に係る追加説明資料

- ・再評価調書（抜粋）

平成29年12月22日（金）

土木部道路課

事業の必要性	事業効果	
	<p>○効果の発現状況 現時点で供用している箇所がないため、まだ整備効果の発現には至っていない。</p> <p>○想定される事業効果</p> <p>①車両通行の安全の確保 現道(主)築館登米線及び(一)若柳築館線の一部は宮城県平均を上回る事故率の区間が存在するが、通過交通が排除され、(一)若柳築館線では交通量が最大7,400台/日減少するなどにより交通事故の減少が見込まれる。</p> <p>②高規格幹線道路へのアクセス向上 当該道路は、東北縦貫自動車道及び三陸縦貫自動車道(三陸沿岸道路)を最短で結ぶ路線となるため、両路線へのアクセス向上及び定時性が確保される。</p> <p>③救急医療施設へのアクセス向上 当該道路を経由することで、地域の第三次救急医療施設(石巻赤十字病院)へのアクセスが向上する。</p> <p>④緊急輸送道路としての機能 東日本大震災発災後、当該道路の供用済区間(I期)を経由し、三陸沿岸部と内陸部(東北縦貫道、一般国道4号)を接続し復旧を支援した。</p> <p>⑤地域産業の支援 新規企業の誘致や在来企業の物流コストの低減を図るなど、地域産業を支援する。</p> <p>⑥県北圏域の観光支援 栗駒国定公園、三陸復興国立公園、伊豆沼・内沼などの県北圏域の観光資源へのアクセス性が向上し、新たな広域的観光ルートの開拓により、交流人口の増加が見込まれ、地域の活性化を支援する。</p>	
事業の効率的性	関連事業の概要・進捗状況等	
	<p>①三陸縦貫自動車道の整備: 事業主体 国土交通省 仙台港北 C~南三陸海岸 C(平成29年3月20日 開通)</p> <p>②国道4号築館バイパスの整備: 事業主体 国土交通省 栗原市築館外南沢地内~市道栗原中央線交差点部(平成27年12月13日開通) ※一部、暫定供用区間含む。</p>	
	<p>代替案との比較検討 規則第24条第3号関係</p> <p>住民説明会で概ねの合意を得ており、代替案の検討はない。</p>	
	コスト縮減計画 規則第24条第4号関係	
	<p>道路建設のコスト縮減については、以下の項目でコスト縮減を図った。</p> <p>①道路規格の見直し、幅員縮小(前回) 道路規格について、事業着手前はI期区間(供用済)と同一である第1種第3級を想定していたが、「地域高規格道路の構造要件」の見直しを踏まえ、事業着手時に第3種第2級に変更し、幅員をW=12.0mからW=8.5mに変更した。 工事費▲15億円、用地費▲1億円</p> <p>②橋梁延長の見直し 東北縦貫自動車道に架かる跨道橋について、当初は橋脚を設けず側道も含めた1径間で跨ぐ計画としていたが、各道路管理者との協議の結果、側道の建築限界をH=4.7</p>	

変更①-1 【①架設工法の変更等 増6.9億円】

【附属資料2】 P.2抜粋

理由

- 橋梁上部工事において、関係機関協議により、落橋防止装置の追加及び荷吊り方法の見直しが生じ、重量が45 t 増加となったもの。
- 橋梁架設工において、上部工の重量増加や、他工事での事故^{*}1 などから、架設クレーン規格を800tから1,000tへ変更が生じたもの。

※1：2016年4月22日、~~新名神高速道路の橋梁上部架設現場（神戸市）での桁落下事故。~~

当初：C = 2. 2億円
 変更：C = 9. 1億円

6.9億円増額

上部工重量	適否	作業クレーン
[当初] 195 t	< OK	規格 800 t ----- 最大吊り能力 214 t
[変更] 240 t	< OK	規格 1000 t ----- 最大吊り能力 276 t

※最大吊り能力条件：作業半径48m、ブーム長70m

